

アニマルランド NEWS

かのう
和の森わんぱくこうちアニマルランド
№109 Apr 2026



- ・ 干支展「午年どうぶつ大集合～ウマとシマウマのヒミツ～」
- ・ 隠れた人気者「ヤマアラシ」
- ・ 初めて関わる飼育現場

10月から3月

- 10/2 ふれあい広場開始
- 10/5 カンムリシロムク♀1羽ふ化
- 10/19 慰霊祭開催
- 10/21 モルモット♂1頭誕生
- 10/27 ホンドテン♂「アムロ」死亡
- 11/23 第24回いきもの講座開催
- 12/5 高病原性鳥インフルエンザ対策の為
バードハウス閉鎖、傷病野鳥の保護受け入れ中止
- 12/18 干支展開催
- 12/22 干支引継ぎ式開催
- 1/7 ニホンカモシカ♂「ヒカリ」死亡
- 1/23 「Amazonほしい物リスト第3弾」受付開始
- 1/30 アビシニアコロブス♀1頭誕生
- 2/5 動物紹介「知ってる?! ヤマアラシ」開始
- 2/15 カイウサギ♂「ソロ」死亡
- 2/16・2/17 中国四国ブロック動物園水族館技術者研究会・
飼育係研修会開催
- 2/28 ホンドテン♀「レイ」死亡
- 3/6 モルモット3頭誕生

正面看板



正面入り口の看板が新しくなりました。

慰霊祭



動物慰霊祭を行いました。来園者の皆様には、慰霊碑に花をたむけていただきました。

第24回いきもの講座



広島市安佐動物公園から講師をお招きし、「マルミミゾウ繁殖プロジェクト」の講演をしていただきました。

干支展



「午年どうぶつ大集合」～ウマとシマウマのヒミツ～と題し、2026年の干支“午”について紹介しました。

干支引継ぎ式



桂浜水族館と合同で干支引継ぎ式を行いました。

のできごと

Amazon
ほしい物リスト
第3弾



1月23日よりAmazonほしい物リスト第3弾を行いました。

動物紹介



ヤマアラシについて詳しく解説しました。

中国四国ブロック会議



令和7年度中国四国ブロック動物園水族館技術者研究会・飼育係研修会を当園で開催しました。

ありし日の動物たち



アニマルランドに貢献してくれてありがとう。

誕生した仲間たち



カムリシロムク



モルモット



アビシニアコロブス

干支展「午年どうぶつ大集合」

～ウマとシマウマのヒミツ～

アニマルランドでは年末年始に新年の干支の動物を紹介する干支展を開催しています。古くからウマは、人の暮らしを助ける身近で力強い動物として大切にされ、“勢い・成長・発展”を象徴する縁起の良い干支とされています。アニマルランドではウマ科の動物である、グラントシマウマを飼育しています。ウマとシマウマのちがいや他のウマ科の動物を紹介する干支展を開催しました。

シマウマの展示場を掃除していると、お客さまから「シマウマに乗って～」と声を掛けられることがあります。ですが、ほとんどの場合シマウマには乗れません。

ウマ科とよばれるウマの仲間は、ウマ、シマウマ、ロバに大きく分けられます。ウマとロバは家畜化され、荷物を引いたり乗用に使われてきましたが、シマウマはほとんど家畜化されませんでした。

私たち人間は、野生動物を人間が利用しやすいように家畜化してきました。一番初めは3万年から1万5千年前にオオカミが家畜化されイヌとなりました。次にヒツジ、ヤギ、ブタ、ウシ、ニワトリと続き、ロバは約6000年前、アフリカノロバからアフリカで家畜化されました。乾いた土地やデコボコ道でもゆっくり確実に歩け、重い荷物を運ぶのが得意です。ウマは今から約5500年前、タールパン型の野生ウマから中央アジアで家畜化されました。広い草原を速く走る力があり、移動やものを運ぶこと、戦い、農作業など、たくさんの場面で人々を助けてきました。ウマは「速さと協力」、ロバは「丈夫さとねばり強さ」で、人の生活を長いあいだ支えてきました。

シマウマは、神経質で臆病、頑固で荒々しい性格をしています。なかなか人になつかず、家畜化することができなかつたと考えられています。アニマルランドで過去に飼育してきたシマウマも臆病な個体が多かったです。中には、触らせてブラッシングをさせたり、エサを手から食べたりする個体もいましたが現在飼育しているペレットは一切触ることができません。個体の性格にもよるようです。

ウマ科の動物は脚が長く、筋肉が発達しているため、とても速く走ることができます。これは草原で天敵から逃げるために役立っています。また、足の指は進化によって中央の指だけが発達し、現在では一本の大きなひづめで体を支えるようになりました。このひづめは地面を強く蹴ることができるため、効率よく速く走ることができます。さらに、草を食べる生活に適した体のつくりも持っています。硬い草をすりつぶすための丈夫で大きな歯があり、長い首を使って地面の草を食べます。また、目は顔の横についているため広い範囲を見ることができ、周りの危険にすばやく気づくことができます。このようにウマ科の動物の体は、草を食べながら草原で生活し、外敵から逃げるように進化したつくりになっています。

ウマ科のからだ

敵を早く見つけるため真後ろ以外は見える広い視野

片方ずつ動かして音を集める耳

盲腸と大腸で草を発酵させ消化する

草をすりつぶすための大きな臼歯

長く強い脚

中指が発達した一本のひづめ

からだの特徴

シマウマは3種にわかれる

	サバンナシマウマ	ヤマシマウマ	グレイビーシマウマ
生息地	サバンナ・森林	サバンナ・高原・岩山	半砂漠・サバンナ
野生下	準絶滅危惧 (NT) 生息数が最も多い (15-25万頭ほど)	危急 (VU) (生息数は34979頭ほど)	危機 (EN) (生息数は1956頭ほど)
しま模様	太いしま模様 背中には黒い線が1本	上から見ると腰のあたりがはしごのような模様	細いしま模様 背中には黒い線が1本
	おなかまでしまがある	おなかは白い	おなかは白い

シマウマの種類

家畜化されたウマですが現在でも野生に近いウマがいます。モウコノウマです。モウコノウマはかつて野生では絶滅してしまいましたが、動物園などで保護されていた個体を増やし、現在はモンゴルの草原に再び放されるなど、保護活動が行われています。日本では千葉市動物公園、多摩動物公園、よこはま動物園で飼育されています。

みなさんがよくご存じのサラブレッドやポニーなどの家畜種は、世界で約300~400品種あるといわれています。日本には古代に大陸から渡ってきたウマがもとになっていると考えられる在来馬がいます。各地域で飼われながら日本の気候や地形に合うように育てられ、地域ごとに特徴があります。しかし、明治時代になると軍馬や大型の馬を作るため、外国の大きな馬との交配が進み、多くの在来馬が減ってしまいました。さらに、農業の機械化や自動車の普及によってウマを使う機会が減り、在来馬の数は大きく減少しました。現在、日本には北海道和種馬、木曾馬、野間馬、対州馬、御崎馬、トカラ馬、宮古馬、与那国馬の8種類の在来馬が残っており、文化や貴重な遺伝資源として保護活動が行われています。

シマウマには主に3種類が知られています。一つ目はグレビーシマウマで、シマウマの中で最も体が大きく、細いしま模様と大きな耳を持っています。主に東アフリカに生息しています。二つ目はサバンナシマウマで、最も数が多い種類です。群れをつくってサバンナで生活し、アニマルランドで飼育しているグラントシマウマはサバンナシマウマの亜種です。三つ目はヤマシマウマで、山地や岩の多い場所に生息しています。

シマウマの体にある白と黒の縞模様は、シマウマの大きな特徴です。この縞模様は一頭一頭で形や並び方が少しずつ異なり、人間の指紋のように同じものではありません。シマウマの縞模様には、いくつかの理由があると考えられています。まず一つ目は、背の高い草の中にまぎれることで外敵から身を守る保護色の役割です。二つ目は、群れで行動したときに縞模様が重なって見えることで、ライオンなどの敵から一頭一頭の姿が見えにくくなり、狙われにくくなるという説です。三つ目は、縞模様によってアブやツェツェバエなどのハエの仲間が近づきにくくなり、刺されにくくするという説です。

アニマルランドのペレットの額には漢字の「上」の字の模様があります。探してみてくださいね。

(久川 智恵美)



グラントシマウマ



ハートマンヤマシマウマ



額にある「上」の字



グレビーシマウマ

隠れた人気者「ヤマアラシ」

アニマルランドに来園された方が1番最初に見ることができる動物は何でしょうか？入口から道なりに進んでいくと現れる小獣舎のサーバルやアナグマ、それとも左手に広がるフラミンゴの群れ？実はそれらの前にヤマアラシの姿を見ることができます。今回はそんな隠れた人気動物？！「ヤマアラシ」を紹介しましょう。

アニマルランドのヤマアラシはタテガミヤマアラシという種類です。頭から背中にかけてタテガミのような毛を持つことが名前の由来で、主にアフリカに生息しています。同じ針状の毛を持つ動物で皆さんが間違いやすい動物筆頭のハリネズミとは、体の大きさが全く違います。代表的なハリネズミの仲間ヨツユビハリネズミは手のひらに乗るほどの大きさ（約20センチ）、タテガミヤマアラシは1メートル近くあるので簡単に見分けることができますと思います。夜行性の動物で、朝展示場に出てエサを食べた後は日陰で寝て過ごすことが多いです。野生では植物の根や葉を主に食べており、動物園ではサツマイモやニンジン、リンゴや白菜などを与えています。エサを食べる時は前足で挟んでから齧りますが、その姿はとてかわいらしく見えます。

当園で飼育しているヤマアラシは3頭います。まず「ミーナ」は広島で2008年に生まれたメスで、これまで3回の出産経験があります。性格はおとなしく優しいお母さんですが、穴掘りが大好きで収容後にその穴を埋めなくてはいけないのが飼育員泣かせです。次に「マサキ」は2014年生まれのおスで、2019年から1度他の動物園で暮らしていましたが、2024年に戻ってきました。他の個体と比べると少し小さな身体のマサキですが人懐っこい性格で、リンゴが大好きです。最後に「ジュン」は2020年生まれのおメスで3頭の中では1番若い個体です。マサキと反対で人に対して少し攻撃的な性格で、近くを通ると毛を逆立てながら寄ってくるので少し怖い時があります。

7月中旬まで、アニマルギャラリー内チンパンジー前にて「知ってる?!ヤマアラシ」と題して動物紹介を行っています。今回のお話も含めたヤマアラシの説明やクイズを貼っていますので、ぜひ見に来てください。
(大地 博史)

針を持つけど違う種だよ



タテガミヤマアラシ	種名	ヨツユビハリネズミ
げっ歯目 (ネズミの仲間)	分類	食虫目 (モグラに近い仲間)
60~100cm	全長	15~20cm
13~27kg	体重	約300g
木の根・樹皮・果実	食べ物	昆虫・ミミズ・トカゲ
夜行性	活動時間	夜行性



ミーナ



マサキ



ジュン

初めて関わる飼育現場

和の森わんぱくこうちアニマルランドで勤務している黒岩礼夢（くろいわらいむ）と申します。前職は高知市クリーンセンターの塵芥収集員として勤めていました。2025年10月からアニマルランドで働いていますが、実はあまり動物について詳しいわけではありません。

保育園の時に遠足でアニマルランドに行ったのが最後で知らないことの方が多いです。毎日学びながら少しずつ動物に対する知見を深めています。今、私はツキノワグマ・インコ・ヤイロチョウなどの熱帯鳥類・病院を担当しています。最初、ツキノワグマの飼育担当と聞いて、「怖い」というイメージで仕事をしていました。しかし、当園で飼育しているツキノワグマのキノと関わっていると、キノの見える愛くるしい姿、エサを欲しがる仕草、気持ちよさそうに寝転んでいる姿を見て「ツキノワグマってこんなにも可愛くて素敵なんだ」と心を打たれました。また、病院には様々な動物たちが来ます。怪我をした鳥、市民の方が保護された動物、調子の優れない当園の飼育動物等、いろんな動物と関わるため、学びの機会がたくさんあります。最初は何も知識がなかった私ですが、病院担当になっていることもあり、今では徐々に動物の知識が深まり、もっと他の動物のことについても知っていきたくて強く感じています。

ツキノワグマなどを担当していますが、タヌキやアナグマやホンドテンなどの小獣の飼育やライオン、スマトラトラ、ジャガーなど猛獣の飼育をしてみたいという気持ちもあり、時間を見つけてはタヌキのポンコ・ポタコ、アナグマのスエコ・サトコ、インコ舎にいるシロビタイムジオウムのサイ・ララ、ライオンのキズナを見て癒されています。今後は、ワンポイントガイドや裏側探検隊などのイベントを担当する機会が増えていくので、万全の準備をして臨みたいと思います。また当園が行っているトサシミズサンショウウオやオオサンショウウオの保護活動にも積極的に取り組み、野生動物や野鳥を観察したりして少しでも多くの動物と関わり学んでいきたいです。

（黒岩 礼夢）





桜が開花し始めた3月下旬。
フラミンゴ展示場前でキャッチ☆
左から

野本 ^{れん}蓮さん(27)
^{おとね}乙寧さん(1)
^{まい}舞さん(27)

高知市からのご来園です。
フラミンゴなどの鳥が好きで、園内のインコなども見てくれました。
「アニマルランドは動物がいっぱい」とコメントをいただき、園内を楽しんでいました。

4月から9月のイベントとお知らせ

開催中～4月5日(日)
わんぱーくこうちまつり

7月開催予定
カプトムシすもう大会、夏の企画展、移動水族館

4月5日(日)
アニマルランドクイズ大会

7or8月開催予定
サマースクール

4月29日(祝・水)
カプトムシの飼い方教室

9月開催予定
動物紹介、敬老イベント

4月1日(水)、8月12日(水)、
9月23日(祝・水)
臨時開園

日・祝 14:30～
ワンポイントガイド
動物の解説を飼育スタッフがおこないます

9月24日(木)
振替休園

詳しい日程等は、決まり次第
ホームページ、X、園内掲示などでお知らせします。
(中止や延期がある場合があります。)

ふれあい広場開放時間

・10:30～12:00
・13:00～14:30

※ 7月～9月は、動物が暑さで弱ってしまうため
お休みしています

動物たちのエサの時間

キツネザル	10:30～
リクガメ	10:30～
チンパンジー	13:30～
フラミンゴ	14:00～
オオサンショウウオ	毎週土曜日 15:15～
アフリカコガタワニ	毎週日曜日 15:15～

表紙「アビシニアコロブスのフィフィと赤ちゃん」

2026年4月1日発行
発行・和の森わんぱーくこうちアニマルランド
〒781-8010 高知市棧橋通6-9-1
TEL088-832-0189 FAX088-834-0929
Eメール kc-171204@city.kochi.lg.jp
編集 山本将充

<http://www.city.kochi.kochi.jp/deeps/17/1712/animal/>
アニマルランドニュース 4、10月の年2回発行
ホームページでも配信中

わんぱーくこうちアニマルランド

検索